

本文

Q-1. (1) tauromaquia とマタドールって同じ意味でしたっけ？

A-1. 関連しますが違います。tauromaquia は「闘牛」、matador は「闘牛士」です。

Q-2. (4) 線過去が「～しようとしたとき」の意味になるのはなぜか。線過去のイメージからかなり離れている気がします。

A-2. 「出かける」というように一回で完了してしまう意味の動詞の場合は、線過去が「...している」(出かけている)という意味でなく、「...しようとする」(出かけようとする)の意味になります。「瞬時動詞の線過去」などと説明している本もあります。Cuando moría, ... (今にも死のうとしたとき) など。

Q-3. (9) ¿Tu eras la que quería saber...? という文で、la que は3人称の扱いになるのですか？あと、どうして過去形なのでしょう？

A-3. la que 以下の文は la を先行詞とする関係文と見ると、la が3人称単数なので、動詞もそれに一致します。教科書では el que はひとまとまりで一個の関係代名詞のように説明されていますが、このように分けて考えることも可能です。過去形になっているのは、過去のこと(過去で決まったこと)を確認しているからです。日本語でも「明日試験だったっけ?」「君は山田君の弟だったのか!」のような文では、過去・完了形が使われますね。

Q-4. (11) の Bueno, sentaos y hablad tranquilos の中で tranquilos は形容詞ですか。副詞ですか？形容詞ならばなぜ直接に動詞を修飾できるのですか？副詞なら複数ではなく単数のまま tranquilo を使ってはならないのですか？副詞にも主語に合わせて語尾を変えるという決まりがありますか？

A-4. これは形容詞が主語 vosotros を修飾し、その結果副詞的な意味になったケースです。形容詞なので主語の性と数に一致します。副詞ならば語形変化しません。

Q-5. (15) Lo primero que tienes que hacer es ir a una...のときの ir は「行くこと」って意味だから不定詞なんですか？

A-5. es の補語なので、動詞は名詞の役割をしなければなりません。そこで不定詞形になります。

Q-6. (16) の una は何故必要なのですか？どんな役割をしているのですか？

A-6. una barbaridad は単に「野蛮さ」という抽象的な意味ではなく、「(ひとつの)野蛮

な行為」という意味になります。

Q-7. (21, 22)の文の意味がよくわかりません。

A-7. Ten は tener の命令形, aquí tienes は「ここにあなたはもっています」ということで人にものを渡すときに使うフレーズ, Mira は mirar の命令形, ... soy yo は「...は(が)私だ」という意味です。このように ser 動詞は補語と一致します。全体で、「はい,どうぞ,ここにそのテーマについて扱った本があります。ほら,ここにいるこれが私です」という意味になります。

Q-8. (24) Espero que...は「接続法のスイッチ」になっている,という事でしたが, Espero que vienes... という文は存在しませんか?

A-8. 直説法と接続法の交替は非常に難しい問題です。Espero que...は,あることが実現することを望む場合(「...になるとよいと思う」)に接続法を使います。直説法が使われる場合がありますが,そのときは好ましいことが実現するのを予想する場合(「よいことが実現すると思う」)です。この場合は前者なので接続法です。

Q-9. (26) 「未来を表す時は必ず接続法になる」との事でしたが,これがよくわかりませんでした。単純に未来形は使われないのですか?

A-9. 未来を示す「時」の従属節は仮想的になるので接続法になります。Cuando + 未来形は使われません。この理由は難しいのですが,未来形は本質的にある事実に対する話者の「推量」という態度を示し,その態度が主節にかかるからだと思います。日本語でも「...するでしょう」というのは変ですね。

Q-10. SI のアクセントがつくときとつかないときは,口語ではどのように区別するのですか?

A-10. イエスの sí、代名詞の「自分、それ自身」の sí、ドレミファソラシドの sí にはアクセントを乗せて発音します。これに対して、英語の if にあたる si は接続詞なのでアクセントは乗りません。

文法

1 肯定の命令文

Q-1. なぜ「命令形」の活用で2人称だけ形が異なるのですか?

A-1. この問題は「なぜ2人称だけ形が異なるのか」ではなく,なぜ1,3人称で接続法が

使われ、また、否定文でも接続法が使われるのか、という問題にしたほうが説明しやすいのでそのように変えます。スペイン語の2人称の肯定命令形は歴史的には、ラテン語の命令形(2人称しかありませんでした)をそのまま継承しているからです。一方、1人称複数と3人称単数・複数「...であるように(望む)」という従属文に起きる接続法と同じで、「望む」の部分がないだけです(願望文と似ています)。

Q-2. 1人称複数や3人称の命令形を使うのはどういう状況ですか？

A-2. 3人称の命令は、usted, ustedes に対する命令(依頼)の場合です。「あなたが...するように」(望む)という意味で、接続法が使われます。また、nosotros は「私たちは...しましょう」という勧誘の意味になります。

Q-3. 命令文で2人称複数の時 d を発音しないから、単数と同じになると思います。そうしたらどうやって聞きわけるんですか？

A-3. canta は can- に強勢があり、cantad は-tad に強勢があります。確かに語末の d は消えやすいのですが、強勢の位置で tú に対する命令か vosotros に対する命令かの区別ができます。

Q-4. たとえば、日本語だと「食べ<食べろ<食べなさい<お召し上がりください」となるのに、スペイン語だと come, coma とほとんど「音」としての聞こえ具合にしか違いがないのが面白いと思いました。

A-4. 日本語は典型的に要素が次々に繋がっていくタイプの言語です。これを「膠着型言語」と言います。一方スペイン語は語形が変化します。これを「屈折型言語」と言います。このようにタイプが異なるのでご指摘のように興味深い比較ができます。

Q-5. 命令形に関して、どうしても人称によって現在形と同じ形になってしまうように思うのですが。

A-5. その通りです。2人称単数の肯定命令形は直説法現在3人称単数と同じになります。2人称単数の肯定命令形には、例外もありますから気をつけましょう。

Q-6. 命令法はいろいろな場面で使える重要な句法だと思うが、もっと丁寧に頼む表現はないのだろうか？ ちょっとぶっきらぼうになりすぎる嫌いがあってならない。

A-6. 丁寧に依頼するときにはたとえば Haga el favor de..., ¿Podría usted...?のようにさまざまな表現があります。1年生の授業で基礎力をつけたら、2年生の授業で表現力をつけてください。

Q-7. 自分自身に「がんばれ」と言い聞かせたりする場合は命令形でなく、どのように言う

のですか？

A-7. ひとり言などで自分自身に呼びかけるときは、二人称を使うのが普通です。

2 肯定の命令形 不規則変化

Q-8. たとえば *Sé la persona que siempre dice la verdad.* のような文があったら、「いつも真実を言う人を私は知っている」なのか、「いつも真実を言う人であれ」なのかは、文脈でしか判断できないのですか？

A-8. 確かに *sé* は *ser* の命令形で「...になりなさい」という意味になります。一方「ある人を知っている」では *saber* ではなくて、*conocer* が使われますので混同はありません。

Q-9. よく使われている（命令形の）*poner, tener, venir, hacer, ir* などが短いのは、やはり長い間にそうなったのですか？ 2人称だけ複雑になっているのは、命令形では2人称が一番多く使われるために例外ができてしまったためですか？

A-9. 命令形が不規則なのはすべて *er, ir* 動詞です。*er, ir* 動詞は命令形の語尾 *-e* が弱勢であるため脱落しました。この現象は中世では命令形に限らず一般に *t, d, n, l, s, z* の後の *e* が脱落したのですが、この脱落形の中でとくに *poner, tener, venir, salir, hacer, decir* だけが現代まで保持されました。これらの動詞は命令形で1音節になったので、「命令」という意図がとくに表情豊かに表現できるようになった、と考えられます。一般の他の動詞は全体の傾向に従って同一の形に合流し、規則的になりました。

Q-10. 今まで教科書の *dímelo* という言葉の意味が辞書を引いても分からなかったのですが、ようやく *di* が *decir* の命令形で、*melo* は「私にそれを」という意味だということが分かりました。ただ *di* には *dar* の点過去の場合もあるので、こういう同じ言葉はどう見分ければいいですか？

A-10. この場合、*dímelo* という語順なら命令形。点過去で使われるなら *me lo di.* となりますから区別がつきます。また点過去一人称単数と、命令形二人称単数では、使用場面がまったく違います。ですから混同されることもありません。

3 否定の命令文

Q-11. なぜ否定命令ではすべての人称で接続法が使われるのですか？

A-11. 否定命令で接続法が使われるのは、ラテン語の否定の接続詞 *NE* (...でないように) が使われていたためです。このラテン語の *NE* (接続詞) がスペイン語の *no* (副詞) に対応することになりました。このように起源としては従属節(接続詞に導かれるので)だったので、「...でないことを(望む)」という意味(願望)で接続法が使われるのです。

4 数詞 1001 から 100 万まで

Q-12. 「千」の mil はどうして 2 千, 3 千...となっても mil のまま語尾が変化しないのですか？

A-12. ラテン語の mille には複数形がありました。たとえば 2000 は duo milia のようになります。中世スペイン語ではこの milia という形を使わずに, dos veces mil 「1000 を 2 回」というようになりました。この形から dos mil となったようです。

Q-13. cien mil で 10 万 (100×1000) となる, とありましたが, 掛け算はこのように続けて数字を言えばよいのですか？

A-13. これは数字の場合です。1 万ならば diez mil, 10 万ならば cien mil です。100 万になると millón という別の単語を使います。1000 万のときは diez millones とします。このようにこのとき millón は複数形をつかいます。一方, 一般の掛け算はたとえば, $25 \times 3 = 75$ ならば veinticinco multiplicado por tres igual a setenta y cinco のように言うので, 100×1000 も cien multiplicado por mil igual a cien mil となります。multiplicado por は長いので por と略すこともあります。

その他

Q-1. 理科一類 7 組のもので。担当の先生から掲示板で推薦すると良いと言っていたので、書き込みします。

「文法から学べるスペイン語 CD 付き」井戸光子 / 石村あつ[著]、ナツメ社、本体 1,800 円 + 税

実践力をつけることを目的とした本ですが、文法が細かく 5 4 セクションにわかれて説明されているので、ディメロの補助として役にたちました。ディメロに載っていなかったこともいくつか学べました。

例) irse の vosotros に対する命令形はただひとつの例外で d が脱落せずに、idos となる。冬学期から使い始めたのですが、スペイン語の成績が上がりました。オススメです！！